



## 隅田川水辺空間等再整備構想



平成 18 年 3 月

墨 田 区

人、まち、そしてみんなの思いをひとつにつなげる隅田川水辺空間をめざして



墨田区長 山崎 昇

墨田区は、東京の母なる川、隅田川に面しているという素晴らしい地域特性を有していますが、この雄大な自然資源である水辺空間を十分に生かしきっていない面があります。

以前、隅田川は排水などが原因で「死の川」と言われ、区民の皆さんも川に背を向けて生活してきた時期がありましたが、近年は水質浄化も進み、魚も住むようになってきました。また、これまで治水対策を中心に進められた隅田川に、水辺での潤いと賑わいの創出が強く求められるようになってきました。

さらには、押上・業平橋駅周辺地区へ誘致を進めている新タワーと隅田川とが連携することにより、墨田区はもとより隅田川沿川地域全体を、世界中の多くの観光客で賑わう空間へ大きく変貌させる可能性を秘めています。

こうした背景のもと、隅田川沿川地域に多くの人を呼び込むための水辺の再整備と活用の指針として「隅田川水辺空間等再整備構想」を策定いたしました。

墨田区としては、隅田川は区民の皆さんだけでなく、都民すべての共通の自然資源として、本構想の実現に向け、国、都、隣接区などと連携・協力をしながら、各種の施策を積極的に進めていきますが、何よりも区民や事業者の皆さんの参加と協力は不可欠です。どうか構想の主旨及び内容をご理解いただき、「人、まち、そしてみんなの思い」を隅田川でひとつにつなげるため、積極的な参加と協力をお願いいたします。

最後に、構想策定にあたりご尽力いただきました構想策定委員会をはじめ多くの関係者の皆さん、また、2回にわたり実施いたしました区民意見募集で、メールやFAXなどを活用し貴重な水辺活用のアイデアをご提案いただきました皆さんに心より感謝いたします。

## < 目 次 >

1 . 構想の概要	1
( 1 ) 構想の目的	1
( 2 ) 構想の対象範囲	1
( 3 ) 構想の性格	1
( 4 ) 構想の期間	2
( 5 ) 構想策定の体制と流れ	2
2 . 隅田川沿川地域の現状特性と問題点	3
( 1 ) 墨田区の成り立ちと隅田川	3
( 2 ) 隅田川沿川地域の概況	5
( 3 ) 隅田川の現状	9
( 4 ) 隅田川沿川地域の現状特性と問題点	13
3 . 水辺空間等の整備・活用の目標	14
( 1 ) 基本理念	14
( 2 ) 基本目標	16
4 . 隅田川沿川地域の空間イメージ	18
( 1 ) 隅田川沿川地域の空間構成	18
( 2 ) ゾーン別の水辺空間等の整備・活用の方針	20
( 3 ) 拠点形成の方針	21
( 4 ) ネットワーク形成の方針	22
5 . リーディングプロジェクト	25
( 1 ) リーディングプロジェクトの選定	25
( 2 ) リーディングプロジェクトの内容	26
6 . 水辺空間等の整備・活用に関する施策	34
6 - 1 . 施策の目標と体系	34
( 1 ) 施策の目標	34
( 2 ) 施策の体系	35
6 - 2 . 施策の内容	37
( 1 ) 水辺と市街地との一体的な空間形成	37
( 2 ) アクセシビリティ・回遊性の向上	40
( 3 ) 水辺の歩行者ネットワークの充実	44
( 4 ) 魅力的な施設・空間の整備	47
( 5 ) 歴史・文化資源の活用	49
( 6 ) 水と緑の景観整備	50
( 7 ) 水辺のイベントの充実	55
( 8 ) 案内性の向上	58
( 9 ) 区民、事業者等との協働	59
( 10 ) 東京都、台東区、その他関係機関等との連携	60
7 . 施策の推進プログラム	61
( 1 ) 基本的な考え方	61
( 2 ) 施策の推進プログラム	61
【参考】構想策定委員会名簿等と構想策定経緯	64

## 1. 構想の概要

### (1) 構想の目的

本構想は、「新たな墨田区基本構想・基本計画」との整合性に配慮しつつ、新タワーの誘致を踏まえた都市型観光の推進なども視野に入れながら、隅田川を中心とした水辺空間の再整備や活用のあり方を明らかにし、区民、事業者、行政が一体となって、それを実現していくことを目的としています。

### (2) 構想の対象範囲

本構想の対象範囲は、墨田区内の隅田川沿川地域を基本とします。

ただし、構想の実現にあたっては、墨田区全体のまちづくりとの連携や隅田川を軸とした広域的な連携の必要性があることから、周辺地域との関係も十分に考慮します。

### (3) 構想の性格

本構想は、隅田川の水辺空間の再整備及び活用に関する基本的な考え方を示すものであり、次のような性格を有するものです。

長期的なまちづくりを見据えつつも、できることから始める構想

区民などから出された隅田川沿川地域で展開が望まれる取組みのなかには、高速道路の地下化など実現には相当な期間を要するもの、オープンカフェの実施など都市型観光推進の観点からすぐに対応が可能なものなど、様々なレベル、内容のものがああります。

このようなことから、本構想では、長期的なまちづくりを見据えた夢のある取組みと同時に、より現実的な、今すぐできる、あるいはしなければならない取組みの実現に向けた道すじを明らかにします。

区民、事業者、行政が一体となって隅田川の将来像を実現するための構想

理想とする隅田川を実現するためには、従来のような行政による取組みだけでは限界があります。このため、区民、事業者、行政が一体となって、理想とする隅田川の実現に取り組んでいけるように、それぞれの役割を明らかにします。

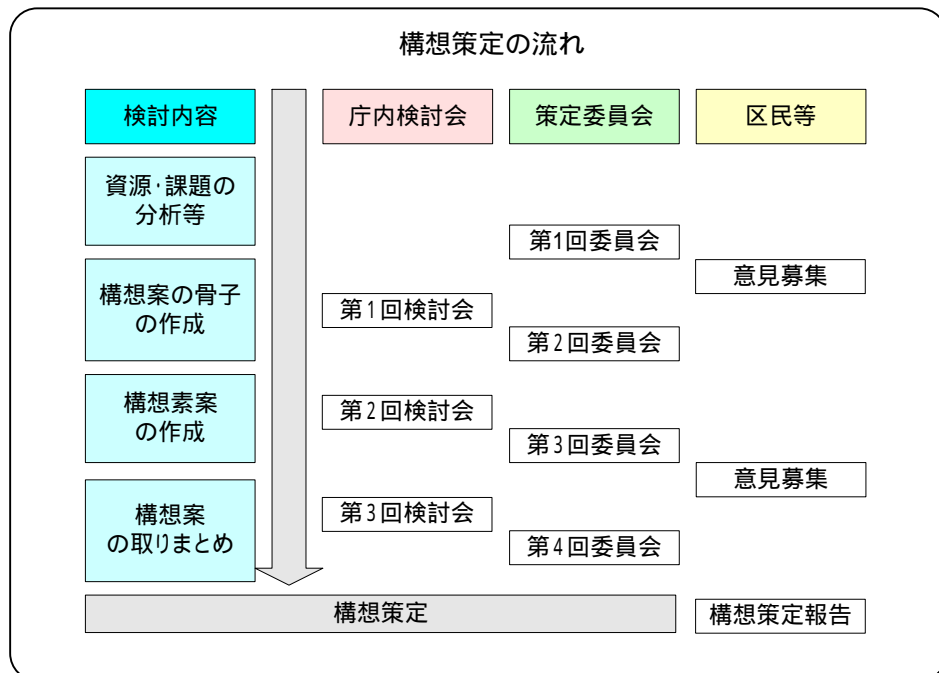
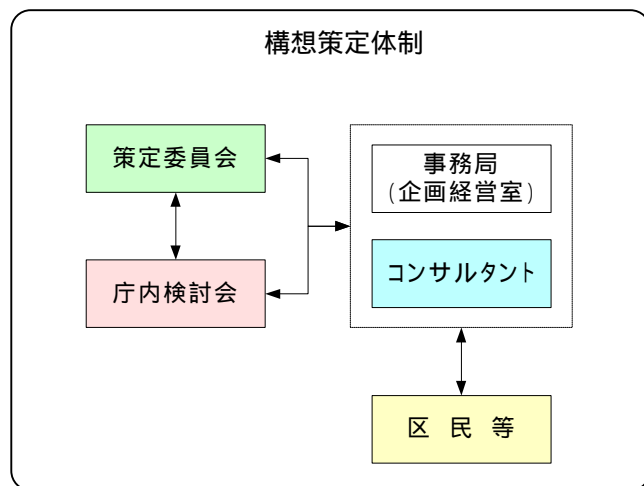
#### (4) 構想の期間

本構想の目標年次は、今から概ね20年後の2025年（平成37年）とします。

ただし、この間に社会経済状況や墨田区又は隅田川を取り巻く環境が大きく変化した場合、適宜、見直しを行うこととします。

#### (5) 構想策定の体制と流れ

本構想は、次のような流れで、委員会での協議や区民から寄せられた意見などを踏まえ、策定しました。



## 2. 隅田川沿川地域の現状特性と問題点

### (1) 墨田区の成り立ちと隅田川

江戸時代（明暦の大火以降）

すみだ一帯は、17世紀頃まで葦の生い茂った武蔵野のはずれで農業が営まれていたようです。こうした湿地帯の開発が始まったきっかけが、1657年（明暦3年）の振袖火事（明暦の大火）でした。江戸城本丸天守閣まで類焼、江戸市街の55%を焼失し、10万人余りの命が奪われました。幕府は牛嶋南部に焼死者を葬り、回向院を建てています。そして防火対策中心の都市復興に着手し、1659年（万治2年）には隅田川に両国橋を架け、市中に防火堤や火除地を設けました。この防火計画に従って、武家屋敷などの移転先に選ばれたのが現在の墨田区南部すなわち本所です。本所奉行を中心に、竪川・大横川・南北割下水の開さくや区画整理を進めた結果、武家屋敷を主とする市街となり、江戸の一部となりました。

江戸幕府が開かれてからは、特に隅田川を利用した運送が経済を支え、その川岸や川に通じる運河の周辺に、多くの倉庫が立ち並び運送業や旅客業が発展しました。また、屋形船や釣り舟、猪牙舟<sup>ちよきぶね</sup>、渡し舟なども発展して、交通の軸としてだけでなく、川遊び、壇堤<sup>せきてい</sup>での花見、花火見物の場として親しまれていました。江戸市中第一の歓楽地を控えた浅草が近いことなどから、多くの市民にとっての憩いの場所となっていました。江戸三大出水をはじめ水害に苦しんだすみだですが、文化・文政期には格好の行楽地として歌舞伎や落語の舞台になっています。

両国橋付近



（出典：「隅田川絵図」（隅田川文庫））

明治～戦後

1878年（明治11年）、南部は本所区となり、北部は南葛飾郡に編入されました。

当時の生産品といえば、南部では瓦、髪結具、ろうそくなどの日用品、北部では農作物でしたが、船便による交通手段の利便性から川沿いに多くの工場が作られ、しだいに工業地帯化します。特に、汽車、紡績、精密工業、石けん、製靴が盛んで、大正期には、輸出向けとして、玩具製造、ゴム工業などが起こり、発展しました。



川はさまざまな利便があった一方で度々の洪水被害ももたらしてきました。特に 1910 年（明治 43 年）の洪水では数十箇所の堤防が決壊、浸水家屋 27 万戸、被災者 150 万人、被害地域は岩淵、志村、王子、日暮里、千住、下谷、浅草、深川、向島、亀戸などに及び水が引くのに 2 週間もかかるという大災害となりました。政府はこれを契機にかねてより懸案とされてきた荒川放水路の掘削を決定し、北区岩淵から直接東京湾への水路の建設に取りかかり約 20 年の年月を費やして 1930 年（昭和 5 年）に完成、隅田川は荒川の支流となりました。

また 1923 年（大正 12 年）の関東大震災で、本所区は 9 割余りが焼失し、焼死者 4 万 8 千人と、東京市全体の 8 割強に達する惨状となりました。やがて復興し、都市化が進んだ北部には、1932 年（昭和 7 年）向島区が誕生しましたが、第 2 次世界大戦の戦火で再びすみだの 7 割が廃きよと化し、6 万 3 千人の死傷者と 30 万人近い罹災者を出しています。

明治 43 年の大水



（出典：「墨田の今昔写真集」（墨田区文化観光協会））

東京大空襲（小伝馬町上空から箱崎・本所深川方面）



（出典：計量社会科学ワークショップ HP）

戦後は、高度成長がもたらす恩恵の一方で工場や家庭からの有害な排水の増加は水質を悪化させ、また高いカミソリ堤防などの治水工事は、水の都の景観を失わせることになりました。

「生き物は生息できない」と言われ、悪臭のために川に近寄るのも敬遠されるほど汚染されていた隅田川も、公共下水道の整備をはじめとして隅田川再生をめざす様々な努力により徐々にきれいになり、まだ種類は少ないものの魚や水鳥たち、さらに岸辺の水生植物にも回復の兆しが見られるようになってきました。

#### 隅田川の名称の変遷

江戸時代には、吾妻橋近辺から下流が「大川」、浅草近辺が「浅草川」、「隅田川」、上流が「荒川」、「宮古川」など、場所によって様々な呼び名がありました。

1896 年（明治 29 年）の旧河川法では一括して「荒川」と呼んでいましたが、1910 年（明治 43 年）の水害を機に荒川放水路が作られ、1965 年（昭和 40 年）の河川法見直しの際に、荒川放水路が「荒川」、岩淵水門から下流の東京湾までの 23 Km が正式に「隅田川」という名称になりました。

## (2) 隅田川沿川地域の概況

### 市街地

墨田区の市街地は、準工業地域・工業地域が全体面積の約53%を占めるという特徴があり、住商工混在の街ともいえます。

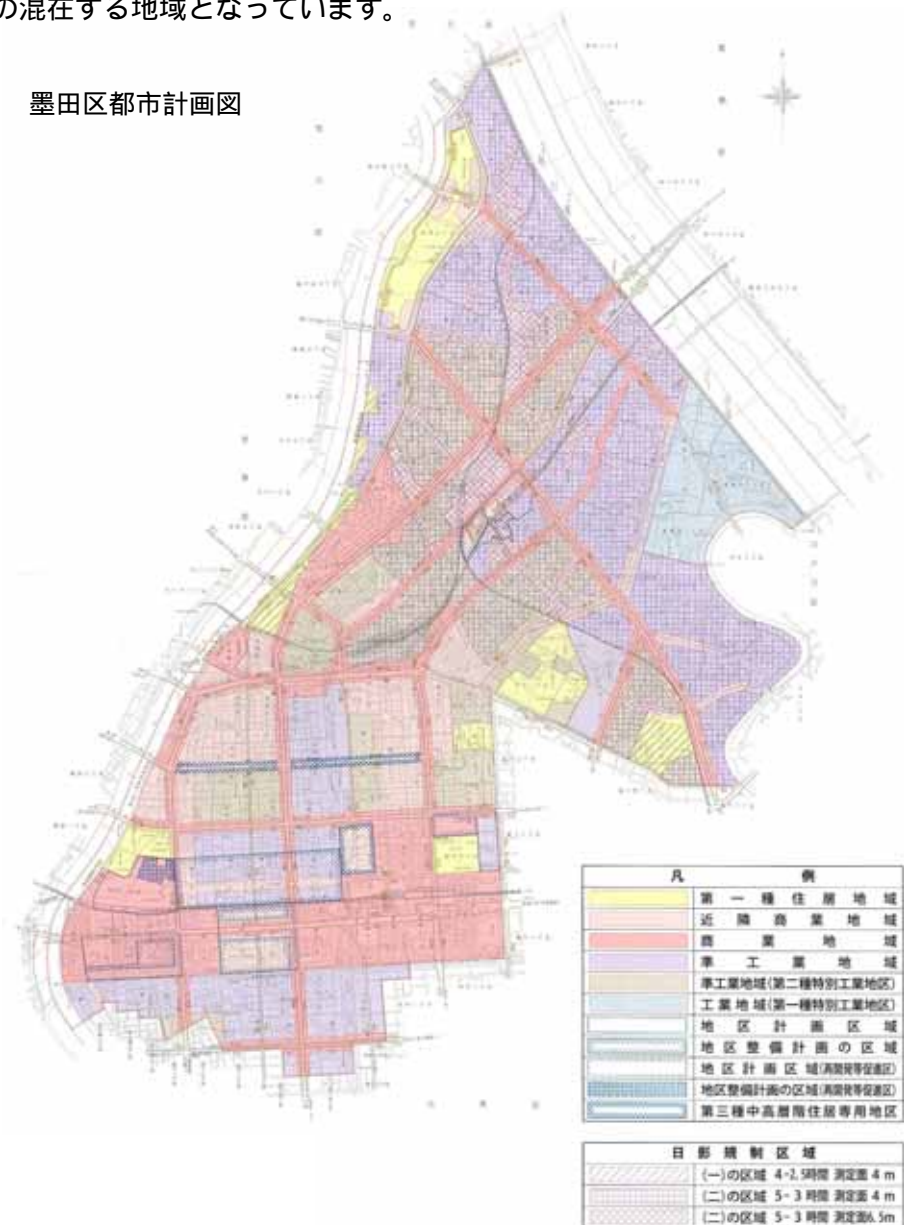
主に北部は工業市街地が多く、南部には両国・錦糸町という広域的な観光・商業拠点を中心とした市街地となっています。

隅田川沿いの市街地について見ると、桜橋より上流については、マンションや学校、病院等の比較的大規模な建物が立地しています。白鬚橋より上流では親水テラスと一体的に白鬚団地が整備され、防災性の高い市街地が形成されています。

北十間川～桜橋間では隅田公園が立地していますが、周辺は中低層の住宅を中心とした市街地となっています。

北十間川より下流については、一部大規模施設も立地していますが、中低層の事務所・工場・住宅棟の混在する地域となっています。

墨田区都市計画図





## 道路・交通

隅田川沿いの鉄道駅としては、本所吾妻橋駅（都営浅草線）、浅草駅（東武伊勢崎線、東京メトロ銀座線、都営浅草線）、蔵前駅（都営浅草線、都営大江戸線）、両国駅（JR 総武線、都営大江戸線）、浅草橋駅（JR 総武線、都営浅草線）があります。

隅田川に沿って高速道路と清澄通りや墨堤通りなどの幹線道路が走っており、これらと直交する形で東西方向にも道路が走り、隅田川を渡る道路橋が数多く見られます。

隅田川沿川地域の道路・交通網



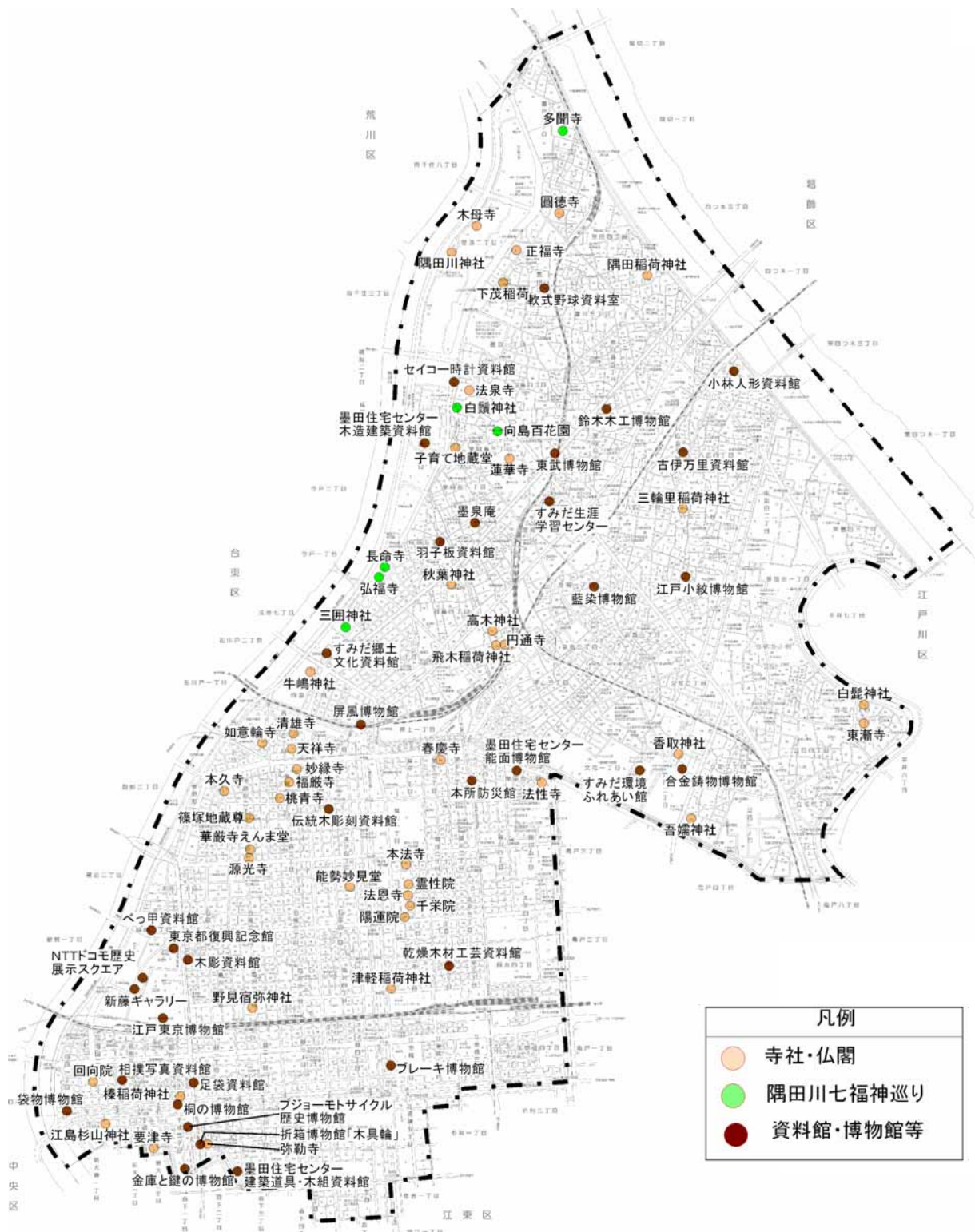


## 観光資源

墨田区には、両国国技館、江戸東京博物館のほか、小さな博物館や資料館、由緒ある寺社などが数多く点在し、これらの施設を中心に祭りやイベントも盛んに行われています。

これらの観光資源ともなる区内施設は、その多くが隅田川沿川地域に帯状に連なっているものの、案内板がないことや、魅力づけがされていないなど、課題も抱えています。

隅田区の観光資源分布



## 公園・緑地

隅田川沿いには、隅田公園、東白鬚公園など区内でも大規模な公園が数多くあります。特に隅田公園の“墨堤の桜”は江戸の昔から名勝として親しまれていますが、高速道路と高速道路下の道路によって堤防上の桜並木と市街地側の公園とが分断されているという問題もあります。

また、吾妻橋公園、こまどり児童遊園、隅田川緑道公園など、高速道路下に公園が整備されていますが、緑が少なく、利用者も少ないのが実情です。

## 河川・水路

墨田区は、荒川、隅田川のほか、江東内部河川と言われる一級河川があり、都内でも水面率は高くなっています。隅田川に接続している河川としては、北十間川と豎川があります。

墨田区の公園・河川



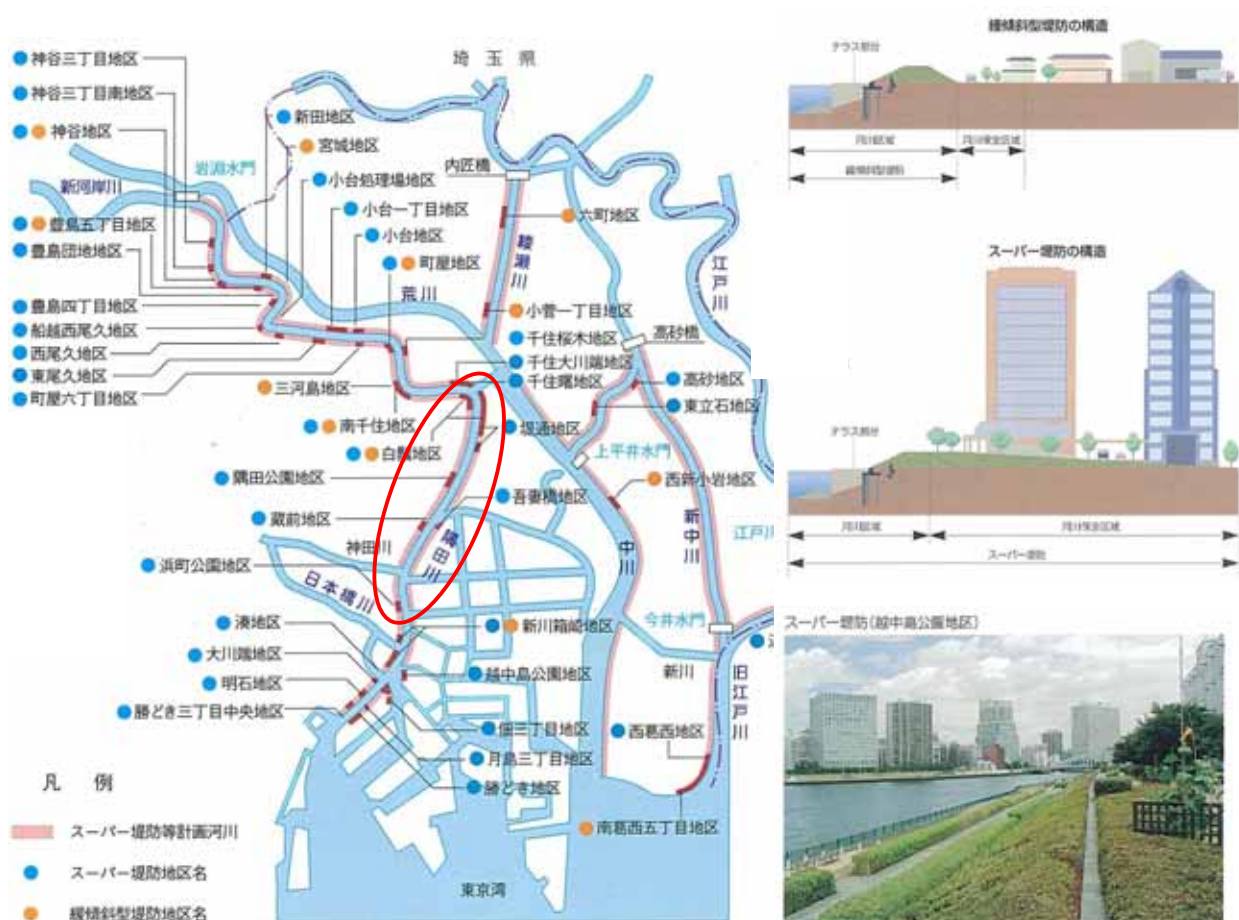
### (3) 隅田川の現状

#### 堤防、護岸

スーパー堤防は、墨田区内の隅田川全川にわたって計画されていますが、整備されているのは堤通地区と吾妻橋地区の2カ所のみとなっています。

また、親水テラスは、概ね全川にわたって整備が進められていますが、一部、未整備の区間もあり、必ずしも連続したネットワークが確保されていません。

スーパー堤防等整備計画、整備箇所図



(資料：「水辺豊かな都市の再生を目指して」(東京都建設局河川部))

#### スーパー堤防とは

スーパー堤防は、土でできた緩やかな勾配がある、幅の広い堤防です。大洪水が発生して水が溢れ出したとしても、壊れることなく、壊滅的な被害から市街地を守ります。また、広い堤防上部は有効に土地利用できるため、やすらぎのある水辺空間の創造にも役立ちます。



## 舟運、船着き場

隅田川で運行されている水上バスは、東京都観光汽船と東京水辺ライン（（財）東京都公園協会）の2つがあります。東京都観光汽船は、浅草から日の出棧橋行きとお台場海浜公園行きが出ており、1日合計約24便が定期運行されています。

東京水辺ラインは、北側は板橋区の小豆沢から新河岸川、隅田川・荒川を經由し、浜離宮・お台場・葛西までの運行ルートがあり、各運行ルートの合計で概ね20便程度（休日・臨時運行含む）の運行本数があります。ただし、墨田区の両国に停泊する本数は定期便で1日3便にとどまっています。

防災船着き場は、災害時のけが人や帰宅困難者の水上輸送、緊急支援物資や復旧資材などの水上輸送ルートの拠点として整備されており、沿川地域を徒歩圏（約2キロ以内）で網羅するものです。墨田区内では、区役所前で整備されています。

水上バスルート



防災船着き場



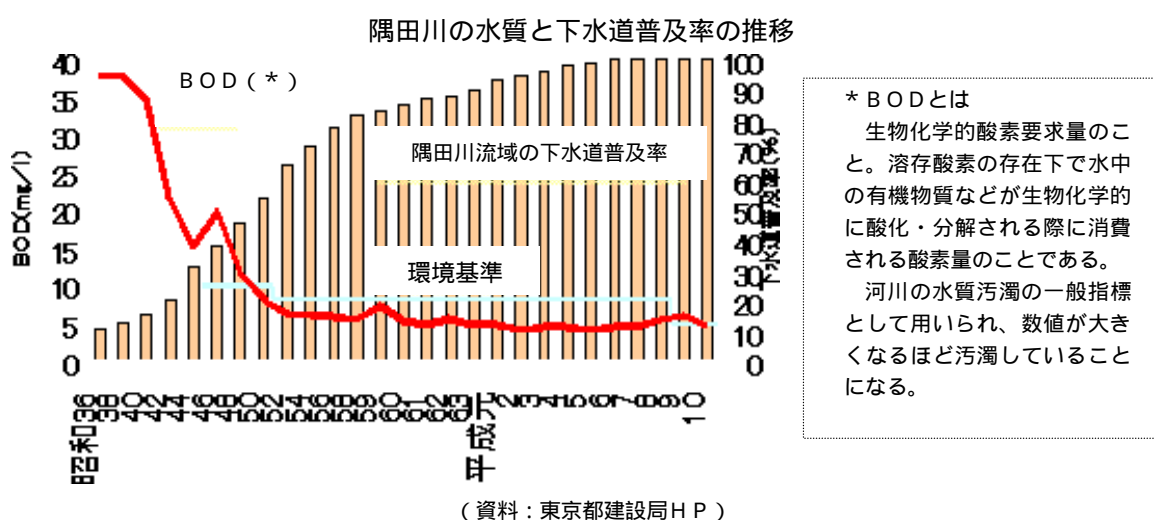
（資料：「水辺豊かな都市の再生を目指して」（東京都建設局河川部））



## 水質

隅田川の水質は、昭和 30 年代頃に比べて、下水道の普及などによりかなり改善されており、それに伴って隅田川に適用される環境基準も厳しくなっています。

隅田川の特徴としては、河川勾配が小さく水が停滞しやすいこと、感潮河川といわれる海水の遡上による影響を受ける河川であること、河川の流量のうち 6 割程度を下水処理水が占めていることなどが挙げられます。そのため、今後水質浄化を行っていくためには、合流式下水道の改善や下水道の高度処理、周辺河川や東京湾全体と連携した浄化を進めていくことが必要です。



## 橋

昔は戦略上の理由から、川には橋を架けないのが普通であり、隅田川に架けられた最初の橋は千住大橋で、1594年(文禄3年)徳川家康によって架けられました。

江戸時代にはさらに永代橋、新大橋、吾妻橋が架けられましたが、吾妻橋のように民間人の手で架けられ通行料として橋銭が徴収される橋もありました。また多くの渡し舟が運行されており、住民の便に役立っていました。

その後、東京全体が大きな被害を受ける関東大震災が発生し、隅田川周辺も甚大な被害を受け、その復興事業として1924~1930年(大正13~昭和5年)に「帝都復興事業」が行われました。内務大臣の後藤新平のリーダーシップにより行われたこの事業は世界の都市計画史上に例のない既成市街地の改造となりましたが、この時期に隅田川などに数多くかけられた「復興橋梁」によって、日本の橋梁技術は、はじめて自立することができたとされます。

様々な橋が架かっていることから「橋の博物館」とも呼ばれ、技術的な面はもとよりデザイン面でも、「帝都の門」となることを意識して橋梁「群」としてのデザインがなされたとされています。

## イベント、住民活動

### 隅田川花火大会

東京で最も古い花火大会であり、1733年（享保18年）、徳川8代将軍吉宗が疫病を退治する目的で始まったと言われています。例年約90万人程度の人で賑わい、2万発位の花火が打ち上げられます。

### 早慶レガッタ

早慶レガッタは1905年（明治38年）に、隅田川向島で第1回大会が開催されて以来、戦争などの中断をはさみながらも、2005年（平成17年）までに計74回行われています。両国橋をスタートし、言問橋上流でゴールする3000mを競うレガッタです。

### ウォーターフェア・レガッタ

広く人々が水や川に親しみ関心を持つための「親水運動」として、また、毎年8月に実施されている「水の週間」の中央イベントの一つとしてとして実施しているものです。桜橋をスタートし、吾妻橋上流でゴールする1200mを競うレガッタです。

### 両国協力会

墨田区の両国の町を活性化するため様々な企画を立案・実施し、両国の魅力を広く発信するため、2003年（平成15年）9月に協力10社で「両国協力会」が設立されました。両国国技館や江戸東京博物館を拠点に「両国にぎわい祭り」などのイベント等が開催されています。

### 向島学会

墨田区の北十間川より北側の向島地域の再生を考える組織として、向島の各種のまちづくり活動に係わる有志が集まり、2002年（平成14年）4月に「向島学会」が設立されました。様々なまちづくりに関する研究や交流会、イベント等が開催されています。

### 雨水利用

墨田区の雨水利用は、区と市民が一体となっており、現在は公共施設での雨水利用や「路地尊」が活用されています。こうした活動に対して国際環境賞「水」部門で優秀賞を受賞するなど、高い評価を得ています。

### ヒートアイランド対策の打ち水大作戦

2004年（平成16年）8月に「打ち水大作戦2004」が行われ、8月25日には全国で35万人が参加して打ち水が行われました。その中で墨田区東向島が観測重点地区となり、0.5～1.0度程度の温度低減が観測されました。

#### (4) 隅田川沿川地域の現状特性と問題点

以上から、隅田川沿川地域の現状特性と問題点を整理すると、次のようになります。

隅田川沿川地域の現状特性と問題点

キーワード		現状特性と問題点
水面	水質	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度成長期に比べ、水質の改善が進んでいるが、環境問題への関心の高まりや多様な水面利用等の観点から、さらなる水質の改善が必要と考えられる。</li> </ul>
	水運・船着場	<ul style="list-style-type: none"> <li>隅田川には水上バスが運行されており、東京の主要な観光ルートの一つになっている。</li> <li>水上バスの多くは浅草を經由するものであり、墨田区（両国）を經由するものは、1日3便（定期便）と少ない。</li> <li>防災船着場が1箇所整備されている。</li> </ul>
	橋	<ul style="list-style-type: none"> <li>隅田川には様々な特徴的な橋がかかっている。</li> </ul>
	イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>隅田川を利用した主なイベントとしては、花火大会、ウォーターフェア・レガッタなどがある。</li> <li>夏期の一時的なイベントであり、年間を通じてのイベントや定期的に行われるイベントは少ない。</li> </ul>
水辺	堤防	<ul style="list-style-type: none"> <li>全区間がスーパー堤防の整備区間となっているが、整備が完了しているのは2箇所にとどまっている。</li> <li>整備済み区間以外は、ほとんどがコンクリート護岸となっており、市街地と水辺空間との阻害要素となっている。</li> </ul>
	テラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパー堤防が整備されていない部分でも、水辺のテラスの整備が進められているが、“連続性がない”“市街地からの視認性、アクセスが悪い”“ホームレスが多い”などの問題もあり、利用率はあまり高くない。</li> </ul>
	緑化	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパー堤防が整備されている区間は、緑豊かな空間が形成されている。</li> <li>その他は部分的に緑化が行われているが、緑が少ない印象を受ける。</li> </ul>
市街地	高速道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>川に沿って高速道路が走っており、市街地と水辺空間との分断要素となっており、景観、騒音等の面からも好ましい存在とは言えない。</li> </ul>
	幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央部では高速道路以外にも川に沿って交通量の比較的多い道路が走り、市街地と水辺空間とを分断するとともに、騒音などの原因となっている。</li> </ul>
	公園緑地、緑化	<ul style="list-style-type: none"> <li>高速道路下に公園や橋詰広場が整備されているものの、あまり利用されていない。</li> <li>墨堤は江戸時代から桜の名所であり、現在も隅田公園周辺は桜の名所となっているが、近年は桜の老齢化が進んだため、桜の保全と創出事業が実施されている。</li> <li>隅田公園と堤防の間に道路があり、公園と水辺空間との一体性に欠ける。</li> </ul>
	市街地	<ul style="list-style-type: none"> <li>川沿いには、工場や業務施設などが比較的多く、人を惹きつけるだけの魅力に乏しい。</li> </ul>
	アクセス・案内性	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道駅から隅田川への主要アクセス拠点としては、両国駅や浅草駅などが考えられるが、駅周辺から隅田川への案内性は必ずしも良くない。</li> </ul>
	新タワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>押上・業平橋駅周辺地区では、新タワーの誘致が検討されている。誘致が実現されれば、北十間川を軸にした、新タワー～隅田川～浅草との連携による、誘客効果の向上も期待される。</li> </ul>
	台東区	<ul style="list-style-type: none"> <li>対岸の台東区側の浅草などには多くの観光客が訪れているが、川(橋)をわたって墨田区側に来る人は少ない。</li> </ul>

### 3. 水辺空間等の整備・活用の目標

#### (1) 基本理念

## 人、まち、そしてみんなの思いをひとつにつなげる 隅田川

～ 「すみだ」らしさの再構築をめざして ～

かつて“水の都”と呼ばれたほど川や水路が多く見られた東京。その東京の母なる川として、隅田川は、墨田区はもちろん東京全体のまちの成り立ちや人々の暮らしに深く関わってきました。

戦前の隅田川は、生活用水や食料（魚介等）の供給源として、人や物資の輸送路として、人々の生活や産業を支えていました。また、川（舟）遊び、花火見物、花見などを通じて、多くの人々に憩いや安らぎを提供し、独自の歴史や文化を育んできました。

当時の隅田川の美しさ、そして人々とのつながりの深さは、唱歌「花」からもうかがい知ることができます。

「花」  
(武島羽衣作詞・滝廉太郎作曲)

春のうららの隅田川、  
のほりくだりの船人が  
權のしづくも花と散る、  
ながめを何にたとふべき。

見ずやあけぼの露浴びて、  
われにも言ふ桜木を、  
見ずや夕ぐれ手をのべて、  
われさしまねく青柳を。

錦おりなす長堤に  
くるればのぼるおぼろ月。  
げに一刻も千金の  
ながめを何にたとふべき。

しかし戦後、工業化や都市化が進むにつれ工場や家庭からの排水は水質を悪化させ、洪水からまちを守るための防潮堤は水辺から人を遠ざけ、水辺の景観を失わせることになりました。

竹屋の渡し（向島の渡し・言問の渡し）大正



出典：「隅田川の橋 - 写真で見る歴史 -」（墨田区立緑図書館 / 平成5年3月）

近年、公共下水道の普及、工場廃水の規制などに伴い隅田川の水質は改善されつつあり、スーパー堤防や親水テラスの整備などにより、まちと水辺との関係も改善されつつあります。

また、水上バスの運行、早慶レガッタをはじめとしたボート競技の開催など、水面の利用も活発になってきており、徐々にではありますが、水辺とまち、水辺と人とのつながりが戻りつつあります。しかし、まだ十分ではありません。

現在、ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化の防止などの観点から、都市における水辺空間の役割が注目され、水辺とまちとの関係を見直そうという新たな動きも起こっています。

加えて、建設が予定されている新タワーは、両国、浅草（台東区）などと連携することにより、隅田川沿川地域を、世界中の人々で賑わう観光地として大きく変貌させる可能性も秘めています。

このような動きを追い風にして、隅田川に関わる人々や地域の思いをひとつにして、区民、事業者、行政が互いに連携・協働し、主体的に行動することによって、かつての隅田川がそうであった、水辺の美しさ、そして、水辺とまち、水辺と人とのつながりを取り戻すとともに、江戸から現代へと受け継いできた「すみだ」独自の歴史・文化に、隅田川から新たな息吹を吹き込み、新たな「すみだ」らしさを構築し、未来へつなげていきたいと考えます。

#### 吾妻橋周辺の将来イメージ





## (2) 基本目標

### 魅力的で楽しい、人が輝く隅田川 …… 水辺と人をつなげる

一部地域を除いて工場や業務施設が多く立地する隅田川沿川地域では、人を惹きつけるだけの魅力的な施設や空間に乏しいのが現状です。せっかく整備されている親水テラスも、高速道路などによって景観や環境を阻害されているため、必ずしも活用されていません。

水上では、花火大会、ウォーターフェア・レガッタなどのイベントが開催されていますが、限定的なイベントであり年間を通じて集客が見込めるものではありません。また、水上バスも運行されていますが、本区側（両国）を経由するものは限られています。

今後は、より魅力的で楽しい隅田川を実現するため、魅力的な施設や空間の整備・充実、水辺環境・景観の向上、水辺のイベントの充実、水上交通の充実などを一体的に行っていきます。

### 身近で美しい、まちと融合する隅田川 …… 水辺とまちをつなげる

隅田川沿川地域では、直立の防潮堤や川沿いの道路などが水辺とまちとのつながりを阻害する大きな要因となっています。また、駅などからのアクセス性や案内性が悪いこと、水辺の歩行者ネットワークのつながりが弱いことも、水辺とまちの関係を希薄にしている大きな原因と考えられます。

このため、水辺とまちとのつながりをより緊密にし、美しい隅田川を取り戻すため、防潮堤の改築（高規格堤防化）や道路網の見直しなどを長期的な視点から進めるとともに、水辺とまちをつなぐネットワークの強化や案内性の向上などを行っていきます。

### 歴史・文化を継承し、新しい未来を築く隅田川 …… 江戸と未来をつなげる

隅田川沿川地域では、隅田川を軸に様々な歴史・文化が生まれ、育まれてきました。そして、今なお、寺社仏閣をはじめ、世界に誇れる多くの歴史・文化資源が残されています。

また、これらは本区の貴重な観光資源でもあり、なかでも、回向院、隅田川七福神、旧安田庭園、江戸東京博物館、両国国技館などは、多くの人を呼び寄せる資源となっています。

隅田川を軸とした「すみだ」らしさの再構築にあたり、これらの歴史・文化資源を、未来そして世界へと、時間や空間を越えて、引き継いでいきます。

## みんなでつくる隅田川 …… みんなの思いをつなげる

都内7区（北、足立、荒川、墨田、台東、江東、中央）を流れる隅田川を、身近で行きやすく、魅力的で楽しい川とするためには、他区などとの連携が重要となります。

特に本区の対岸に位置する台東区とは、隅田川を軸にして、新タワーと浅草などの観光資源を相互に連携させることにより、大きな相乗効果が期待されます。

このため、隅田川に関わる人々や地域の思いをひとつにして、「すみだ」らしさの再構築に取り組んでいきます。

ただし、この思いの実現は、行政の力だけで、できるものではありません。このため、区民や事業者などが参画しやすい仕掛け・仕組みづくりも検討しながら、区民や事業者などの主体的かつ積極的な取組みを誘導していきます。

## 4. 隅田川沿川地域の空間イメージ

隅田川沿川地域の特性を踏まえて、沿川地域のゾーニング、拠点配置及びネットワーク形成の考え方を整理し、隅田川と周辺地域との関わり方や隅田川を軸とする水辺空間等の整備・活用のイメージを明らかにします。

### (1) 隅田川沿川地域の空間構成

隅田川沿川地域において、次のような“ゾーン”“拠点”“連携軸”を位置づけます。

#### ゾーン

隅田川沿川地域を“安全・安心の生活ゾーン”“水と緑のスポーツ・レクリエーションゾーン”“歴史と文化の賑わいゾーン”に区分し、それぞれの特性に応じた水辺空間の整備やネットワークの充実を行います。

#### 拠点

隅田川沿川地域において重点的かつ積極的に各種施策を展開していくべき空間として“水辺の賑わい拠点”を配置します。

“水辺の賑わい拠点”をサポートし、これと連携しながら、市街地全体の魅力向上を図るため重点的かつ積極的に各種施策を展開していくべき空間として“水辺との連携拠点”を配置します。

#### 連携軸

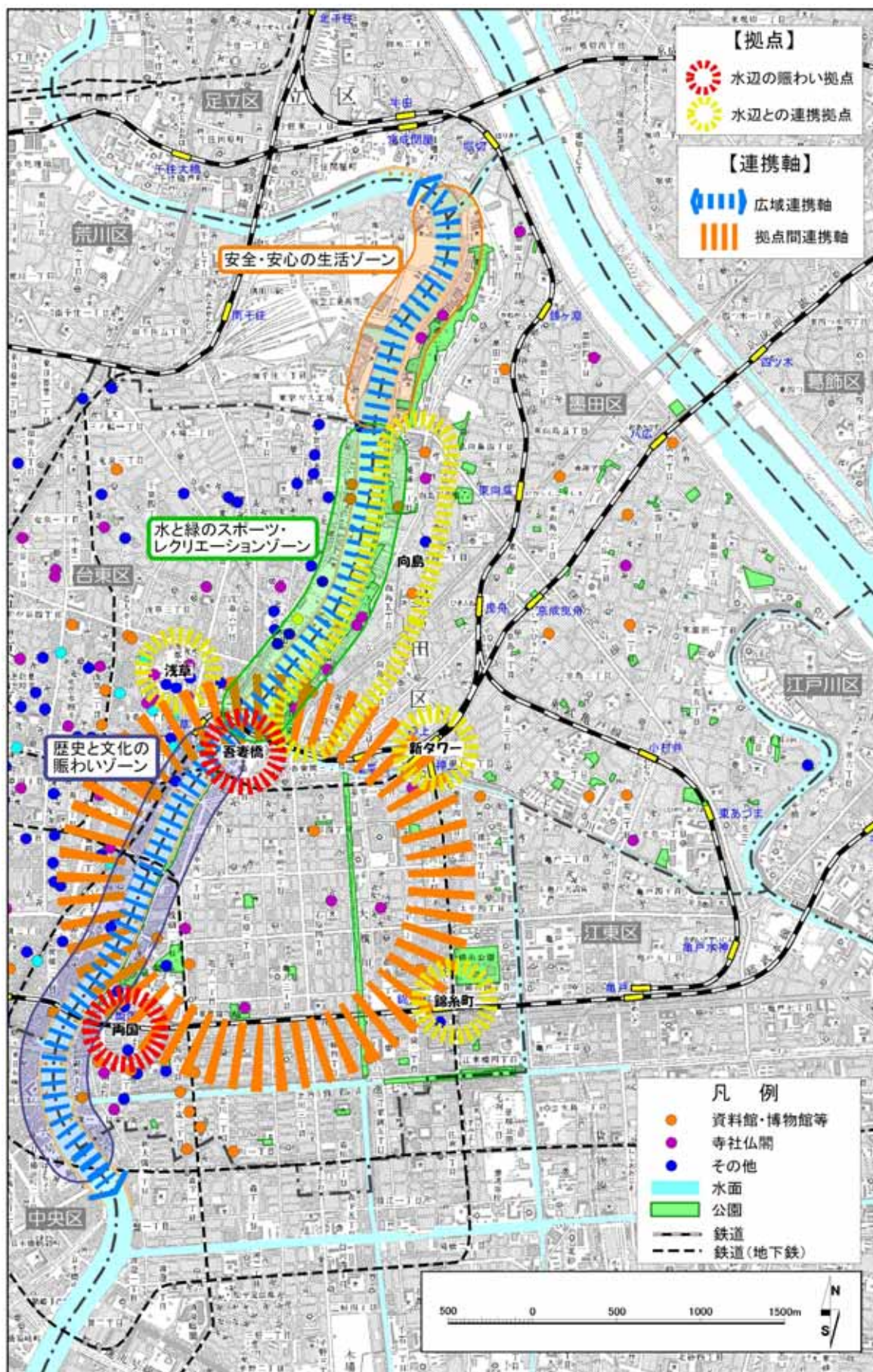
“水辺の賑わい拠点”相互の連携を高めるとともに、行政区域の枠組みを越えた連携を行っていくため、隅田川そのものを“広域連携軸”として位置づけます。

“水辺の賑わい拠点”と“水辺との連携拠点”との連携を強化し、市街地全体の回遊性を向上し、隅田川と市街地との一体性をより強固なものとするため“拠点間連携軸”を位置づけます。

これらの連携軸上では、水上、陸上の様々なネットワークの強化を重点的に行います。



隅田川を軸とする水辺空間等の整備・活用の方針図



## (2) ゾーン別の水辺空間等の整備・活用の方針

各ゾーンにおける水辺空間等の整備・活用に関する基本的な考え方は次のとおりです。

### ゾーン別の水辺空間等の整備・活用の方針

ゾーン名 (区間)	基本的な考え方
安全・安心の生活ゾーン (白鬚橋から上流)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隅田川沿いでは、防災性を高めるための市街地再開発事業が完了し、中高層住宅を中心とする住宅系の土地利用が展開されています。その中には都立東白鬚公園があり、学校、病院など公的施設も充実しています。</li> <li>・ 水辺では、大部分で緩傾斜堤防及び親水テラスが整備されていますが、高速道路、段差などの存在により、水辺と市街地との一体感は乏しくなっています。</li> <li>・ 対岸は、高規格堤防と都立汐入公園との一体的な整備が行われ、緑豊かで開放的な空間が形成されています。            今後は、水辺と市街地との一体化を阻害している要因の解消に努めるとともに、都立東白鬚公園や都立汐入公園などと連携を図りながら、地域住民の安らぎの空間として、水辺空間の利用を促進していきます。</li> </ul>
水と緑のスポーツ・レクリエーションゾーン (白鬚橋から北十間川)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隅田川沿いには、隅田公園、堤通(交通)公園、野球場、プールなど多くの公園やスポーツ施設が点在していますが、水辺とは道路やフェンスなどで分断されており、水辺と市街地とのつながりは良いとは言えません。</li> <li>・ 隅田公園周辺に桜並木などがあるため、隅田川沿川地域のなかでも緑豊かなイメージが強く、春には墨堤さくらまつりが開催され、多くの人で賑わいます。また、水辺からはやや離れますが、向島百花園をはじめ隅田川七福神巡りの7箇所のうち6箇所がゾーン内にあります。</li> <li>・ 対岸にも、隅田公園、リバーサイドスポーツセンター、野球場などがあり、多くの人に利用されています。</li> <li>・ ウォーターフェア・レガッタ、早慶レガッタ、隅田川花火大会などのイベントも、このゾーンを中心に開催されています。            今後は、このような特性を活かして、水辺と公園等との一体的な空間形成に努めるとともに、緑豊かな地域のスポーツ・レクリエーションの拠点として、その機能の充実・強化を図っていきます。</li> </ul>
歴史と文化の賑わいゾーン (北十間川から下流)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対岸も含めて、浅草駅、両国駅をはじめとした多くの鉄道駅が集中し、広域的なアクセス性に優れています。</li> <li>・ 両国国技館、江戸東京博物館のほか、各種資料館、博物館、寺社など、日本の伝統文化や歴史を伝える施設、資源が点在しています。</li> <li>・ 水辺ではかなりの区間で親水テラスが整備されていますが、区役所前以外では直立の防潮堤が残されており、高速道路などとともに、水辺と市街地とのつながりを阻害しています。</li> <li>・ 水上バスの発着所が両国にありますが、ここを発着する便数はわずかです。            今後は、このような交通利便性の高さや歴史・文化資源などを活かして、観光客をはじめ多くの人が集まる、賑わいのある水辺空間づくりを行っていきます。</li> </ul>



### (3) 拠点形成の方針

各拠点における空間形成や隣接拠点等との連携に関する基本的な考え方は次のとおりです。

#### 拠点形成の方針

名称等		基本的な考え方
水辺の賑わい拠点	両国拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>両国は、両国国技館、江戸東京博物館等の観光施設のほか、相撲部屋、ちゃんこ料理店、こだわりの老舗料理店等も点在する、すみだらしさを象徴する観光拠点です。</li> <li>既存資源や独自の食文化などと水辺とを有機的につなげ、賑わいのある拠点を形成していきます。</li> <li>両国駅から隅田川への案内性・連絡性の向上、両国国技館や旧安田庭園等と隅田川との一体的な空間形成、水上バス発着所などを活用したカフェテラスの設置などを行います。</li> </ul>
	吾妻橋拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>吾妻橋周辺は、区内の隅田川のほぼ中央に位置し、両国、浅草、新タワー、向島の各拠点を結ぶ重要な位置にあり、区庁舎やホールとともにオフィスビルなどが立地しています。</li> <li>アサヒビール直営のレストランをはじめとした飲食店や佃煮屋などの老舗店舗も点在しています。</li> <li>浅草、両国、新タワーなどとの連携に配慮しながら、舟運機能の強化、水辺との一体的な空間形成、オープンカフェや水上ステージの設置、各種イベントの積極的な開催などを行います。</li> </ul>
水辺との連携拠点	浅草拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>浅草寺を中心に多くの観光客で賑わう浅草周辺も、水辺の連携拠点の一つとして位置づけます。</li> <li>吾妻橋、新タワー、両国などとも相互に連携し、より一層の集客を図るための工夫を行います。</li> <li>台東区の協力のもと、本区側の観光資源等も表示した観光案内板の設置、パンフレットの配布、吾妻橋拠点との一体的なイベントなどを実施します。</li> </ul>
	新タワー拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>新タワーを中心に新たな観光拠点となることが期待される地区です。</li> <li>業平橋駅、押上駅を有する交通結節性の高い地区で、押上駅からは成田空港や羽田空港とも直接行き来できるため、国際的な交流拠点となることが期待されます。</li> <li>新タワーを核に、新たな商業・業務機能等の誘導を図りながら、賑わいのある拠点を形成します。</li> <li>隣接する北十間川を活かして、水辺と一体となった潤いの感じられる空間づくりを行うとともに、北十間川を軸に吾妻橋や浅草との連携強化を図ります。</li> </ul>
	錦糸町拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>錦糸町駅周辺は、市街地再開発事業等により商業・業務・サービス・文化機能等の高度化が進んでいます。その一方、隠れた名店も少なくなき、先進性と界わい性が混在した、多様性がまちの大きな魅力となっています。また、最近ではエスニック料理店も増えてきています。</li> <li>新タワー、隅田川へのアクセス拠点の一つとして位置づけ、既存の道路ネットワークや商業集積等を活かし、より多くの人を新タワーや隅田川へ誘導する仕掛けづくりを行います。</li> </ul>
	向島拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>向島百花園・長命寺・弘福寺（隅田川七福神）向島花街、見番通りなど、江戸の歴史・文化資源が数多く残る、墨田らしさを感じられるエリアです。</li> <li>地蔵坂通り商店街、鳩の街通り商店街など、下町の生活を支える昔ながらの商店街や、言問団子、長命寺桜もちなどの名物もあります。</li> <li>歴史・文化資源の活用を行うとともに、商店街などとも協力して歴史や文化が感じられる街並みの形成を行い、隣接する隅田川の空間と一体となった、歩いて楽しいまちづくりを行っていきます。</li> </ul>

#### (4) ネットワーク形成の方針

##### 連携軸

“広域連携軸”と“拠点間連携軸”におけるネットワーク形成に関する基本的な考え方は、次のとおりです。

##### 連携軸の形成方針

名称等		基本的な考え方
広域連携軸	隅田川	<ul style="list-style-type: none"> <li>隅田川を水辺の広域連携軸として位置づけます。</li> <li>両国拠点、吾妻橋拠点、向島拠点を結ぶ軸として、また他区なども含めて隅田川沿川地域を結ぶ軸として、水上及び水辺のネットワークを強化します。</li> <li>水上においては、新たな船着場の整備などを行い、水上交通ネットワークの充実を図ります。</li> <li>水辺においては、親水テラス、堤防上の通路等の充実を行い、歩行者及び自転車のネットワークを強化します。</li> </ul>
拠点間連携軸	浅草 ～吾妻橋 ～新タワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>北十間川沿いを浅草、吾妻橋、新タワーを結ぶ重要な連携軸として位置づけます。</li> <li>新タワーと隅田川を結ぶ水上交通や水辺の歩行者ネットワークの充実を図ります。</li> <li>浅草～業平橋～押上を結ぶ交通についても、長期的かつ広域的な視点からネットワーク形成のあり方を検討していきます。</li> </ul>
	新タワー ～錦糸町	<ul style="list-style-type: none"> <li>新タワーと錦糸町の間は、横十間川、四ツ目通り、大横川親水公園を一つの連携軸として位置づけ、それぞれの特性に応じてネットワークの強化を図ります。</li> <li>横十間川については、錦糸町から新タワーへの水上交通の可能性を検討します。</li> <li>四ツ目通りについては、新タワーに至るシンボリックな空間として歩行空間の充実などを検討します。</li> </ul>
	錦糸町 ～両国	<ul style="list-style-type: none"> <li>両国～錦糸町を結ぶ鉄道を重要な交通軸として活用するとともに、北斎通りを活用して歩行者ネットワークの充実を図っていきます。</li> <li>豎川は水上交通ネットワークの軸として可能性を検討していきます。</li> </ul>

##### 水上ネットワーク

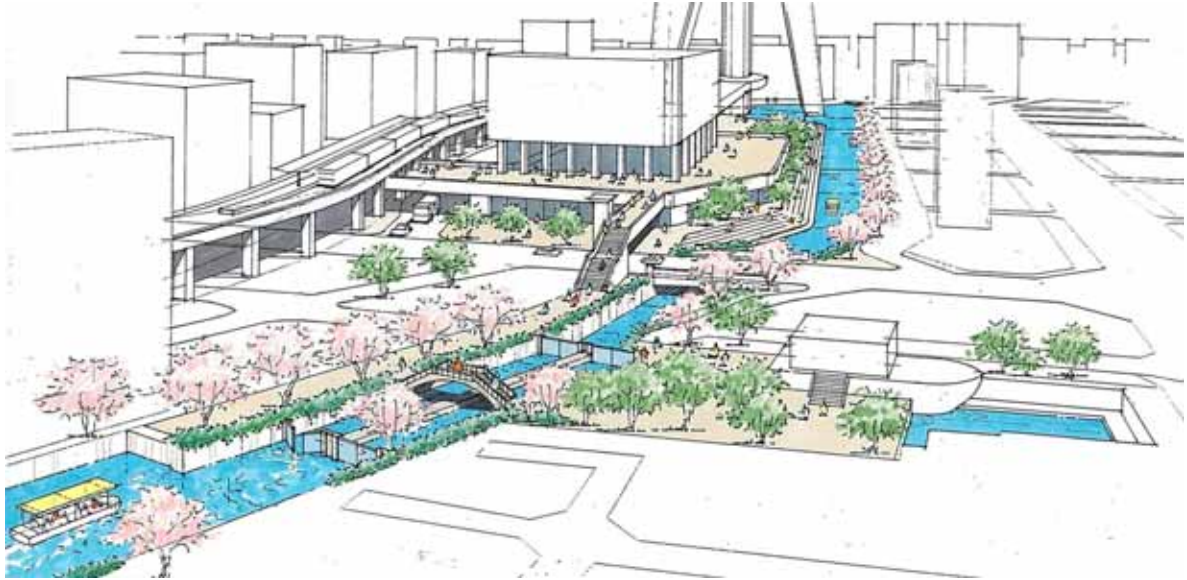
観光レクリエーションや日常生活の交通手段として、また災害時の緊急輸送のため、隅田川及び江東内部河川を活用した水上交通の充実を図ります。

- 隅田川においては、吾妻橋周辺に水上バスのための新たな船着場を整備し、新たな水上バスルートの開設を推進します。
- 江東内部河川においては、隅田川と新タワーとを結ぶ水上交通（北十間川）や新タワーと錦糸町を結ぶ水上交通（北十間川～横十間川）の可能性について検討します。
- 隅田川や江東内部河川を活用して、東京ディズニーリゾートやお台場などとを結び、より広域的な水上交通の実現を目指します。

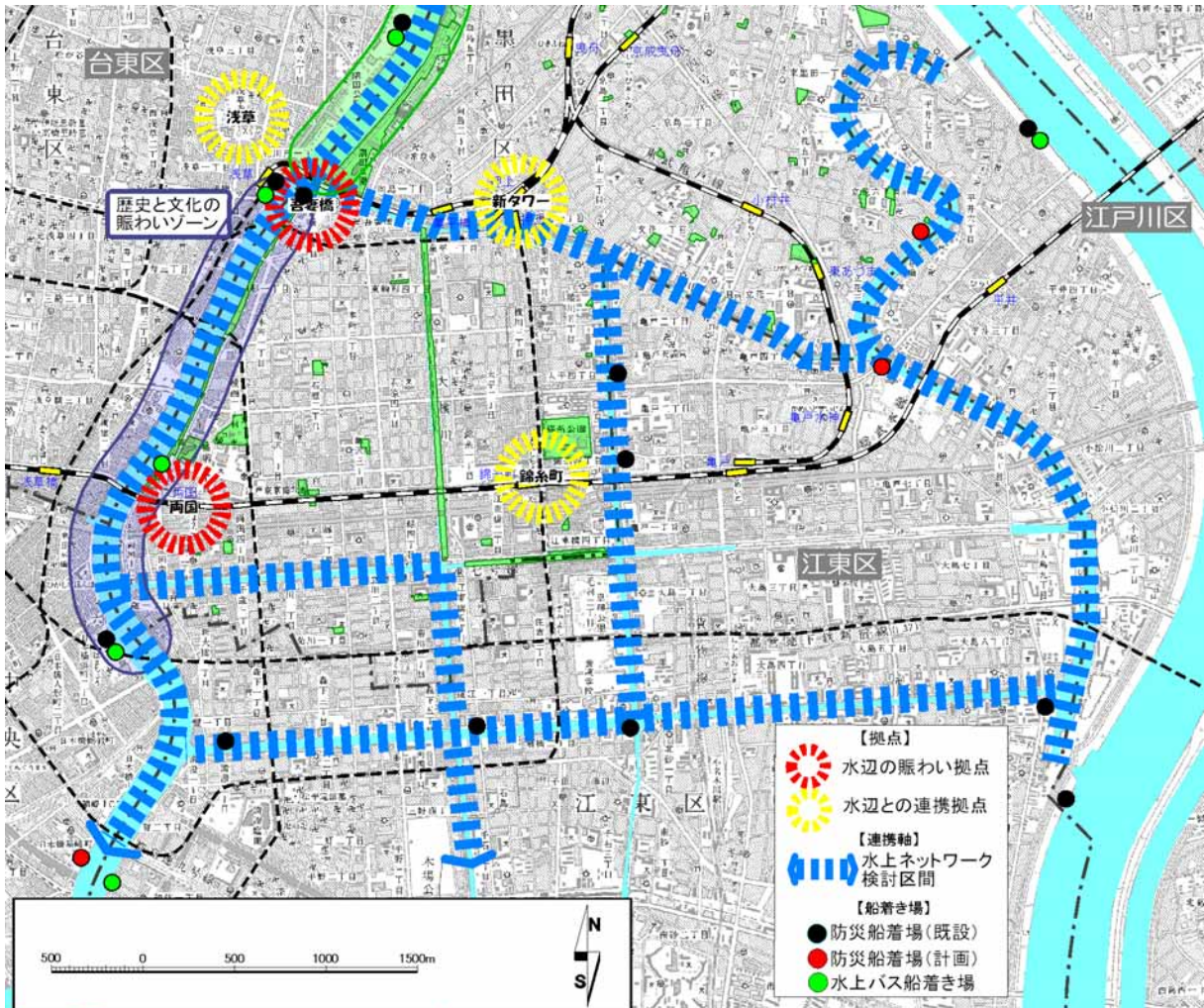


- ・ 台東区や江東区等とも連携して、観光のみならず日常生活の交通手段としても利用できる水上タクシーを運行することも考えられます。

北十間川における水運のイメージ



隅田川を軸とする水上交通ネットワーク構想図



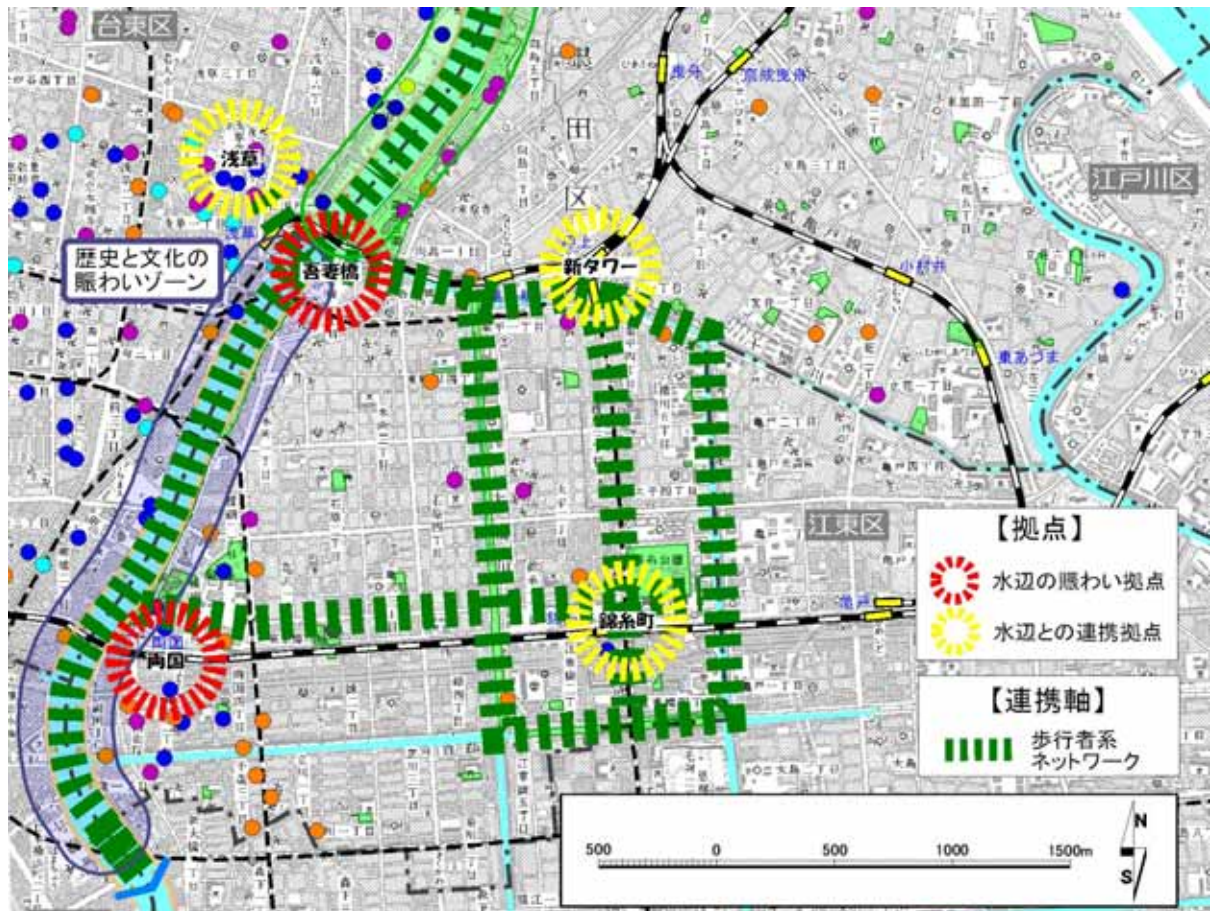


## 歩行者系ネットワーク

拠点間の連携を高めるため、次のような考え方にに基づき、歩行者系ネットワークの充実を進めます。

- ・ 隅田川沿いでは、親水テラス、堤防上の通路等の充実を行い、歩行者系ネットワークを強化します。
- ・ 吾妻橋拠点と新タワー拠点の間は、北十間川を歩行者系ネットワークの軸として位置づけ、水辺の散策路の整備と東武鉄道高架下の活用等により、歩いて楽しい空間づくりを行います。
- ・ 新タワー拠点と錦糸町拠点の間は、横十間川、四ツ目通り、大横川親水公園を歩行者系ネットワークの軸として位置づけ、歩いて楽しい空間づくりを行います。
  - 横十間川は、水辺の散策路などの整備を行います。
  - 四ツ目通りは、錦糸町から新タワーに至るシンボル軸として、歩行空間の充実とともに、魅力的な商業施設等の立地や良好な街並みの形成を誘導します。
  - 大横川親水公園は、必要に応じてリニューアル等を行うとともに、オープンカフェの開設やイベントの充実などを行います。
- ・ 錦糸町と両国の間は、北斎通りを歩行者系ネットワークの軸として位置づけ、両国周辺の歩行空間の充実とともに、魅力的な商業施設等の立地や良好な街並みの形成を誘導し、歩いて楽しい空間づくりを行います。

隅田川を軸とする歩行者系ネットワーク構想図





## 5. リーディングプロジェクト

「人、まち、そしてみんなの思いをひとつにつなげる 隅田川」を実現するため、優先的かつ重点的に取り組むべきことを“リーディングプロジェクト”として位置づけます。

これを積極的に進めることにより、その効果を点から線（隅田川全川）そして線から面（周辺市街地）へと波及させていきます。また、1人でも多くの人に隅田川に対する思いを深めてもらい、東京、全国そして世界の水辺づくり（水辺再生）の先駆けとなることを目指します。

### (1) リーディングプロジェクトの選定

本構想では、次のものをリーディングプロジェクトとして位置づけます。

- ・ 高速道路地下化等推進プロジェクト
- ・ 賑わい拠点形成プロジェクト（両国周辺、吾妻橋周辺）
- ・ 向島周辺水辺とまちの融合プロジェクト

リーディングプロジェクトに選定した理由は、次のとおりです。

リーディングプロジェクトの選定理由

項目	選定理由
<p>高速道路地下化等推進プロジェクト</p>	<p>隅田川を本当の意味で、身近で楽しい、まちと融合した空間とするためには、高速道路の地下化は不可欠であると考えます。これが実現されてはじめて、賑わい拠点などを中心に展開される様々な取組みが生き、水辺、まち、そして人が本来の輝きを取り戻すといっても過言ではありません。</p> <p>高速道路の地下化を実現するためには、広域的な道路ネットワークの問題、構造上の問題、費用の問題など、これから解決しなければならない様々な問題があります。当然、これらは墨田区だけで解決できることではなく、他区や都あるいは国などとも調整を図りながら、解決していかなければなりません。また、区民や都民などの力強いバックアップも必要です。</p> <p>だからこそ、高速道路の地下化をリーディングプロジェクトの一つとして位置づけ、今から検討・調整を進めていきます。</p>
<p>賑わい拠点形成プロジェクト(両国周辺、吾妻橋周辺)</p>	<p>隅田川の水辺を魅力的で楽しい、人が輝く空間とするためには、まずは、水辺の賑わい拠点として位置づけた両国周辺と吾妻橋周辺において、様々な施策を重点的かつ優先的に実施し、水辺の賑わいづくりの成功事例を作っていくことが大切だと考えます。</p> <p>その成功をばねに、点から線、そして線から面へと、水辺の賑わいを広く波及させていくことを目指し、両国周辺、吾妻橋周辺における賑わい拠点の形成をリーディングプロジェクトとして位置づけます。</p>
<p>向島周辺水辺とまちの融合プロジェクト</p>	<p>隅田川が育み、墨田区が受け継いできた歴史・文化も、「すみだ」らしさを再構築するためには不可欠な要素です。</p> <p>両国周辺、吾妻橋周辺とともに、江戸の歴史・文化が色濃く残る向島周辺においても、点在する歴史・文化資源を活用し、まちと水辺が融合した歩いて楽しい空間づくりを進めていきます。</p>

(2) リーディングプロジェクトの内容

それぞれのリーディングプロジェクトの内容は、次のとおりです。

## 高速道路地下化等推進プロジェクト

高速道路の地下化に関する技術的な可能性を検証するとともに、地下化に関する区民、都民などの合意形成を図るための取組みを継続的に進めます。

他区等とも連携し、地下化の実現に向け、東京都、国に積極的な働きかけを行っていきます。

道路の地下化の効果を検証する意味も含めて、まずは、隅田公園周辺の墨堤通りの地下化の実現を目指します。

項 目	内 容	時 期
隅田川水辺フォーラム等の開催	隅田川の再生について議論するフォーラム等を定期的に開催します。 高速道路の地下化を重要なテーマと位置づけ、多くの区民、都民などの意見を継続的に聞いていきます。	短期
高速道路の地下化（可能性調査の実施）	墨田区内の高速道路を地下化する場合、ルートや構造がどのようになるかを調査・検討します。その際の市街地に対する影響や概算費用なども把握し、実現に向けた課題の洗い出しを行います。	短期
高速道路の地下化（検討協議会等の立ち上げ）	東京都などとも連携し、隅田川沿いの高速道路の地下化に関する検討を行うための協議会等を立ち上げます。	短期
沿川道路の地下化	隅田公園と隅田川との一体的な空間形成を目指して、堤防沿いの墨堤通りの地下化（高規格堤防化）を関係機関と検討します。	中期

高速道路地下化検討区間



### 高速道路地下化の最新動向等

東京では、昭和 39 年のオリンピック開催を契機に水辺の上に高架形式の高速道路が次々と建設されていきました。これが東京そして我が国にもたらした経済効果は大きなものがありますが、引き換えに失ったものも少なくありません。その一つが、水辺景観の喪失であり、高度経済成長が生み出した負の遺産とも言えるものです。

このようなことから、国では、都が招致を表明している 2016 年のオリンピックを目指して、日本橋川上の高速道路の撤去（地下化や移設等）を実現するため、有識者、都、中央区などで構成する「日本橋 みちと景観を考える懇談会」を中心に可能性検討を進めることとしています。

墨田区においても、このような動きと連動しながら、隅田川沿いの高速道路の地下化を推進し、これまでの負の遺産を解消し、我が国の都市再生の先導的な役割を果たしたいと考えます。

## 両国周辺賑わい拠点形成プロジェクト

両国国技館、江戸東京博物館、旧安田庭園など墨田区を代表する観光資源の集積とちゃんこ料理などの食文化を生かし、これらと隅田川水辺空間との結びつきを強化して、賑わいのある拠点の形成を目指します。

市街地側では、旧安田庭園の再整備、両国駅周辺での観光案内所の設置や案内板等の充実、駅から隅田川へ至る歩行者ネットワークの充実を行います。

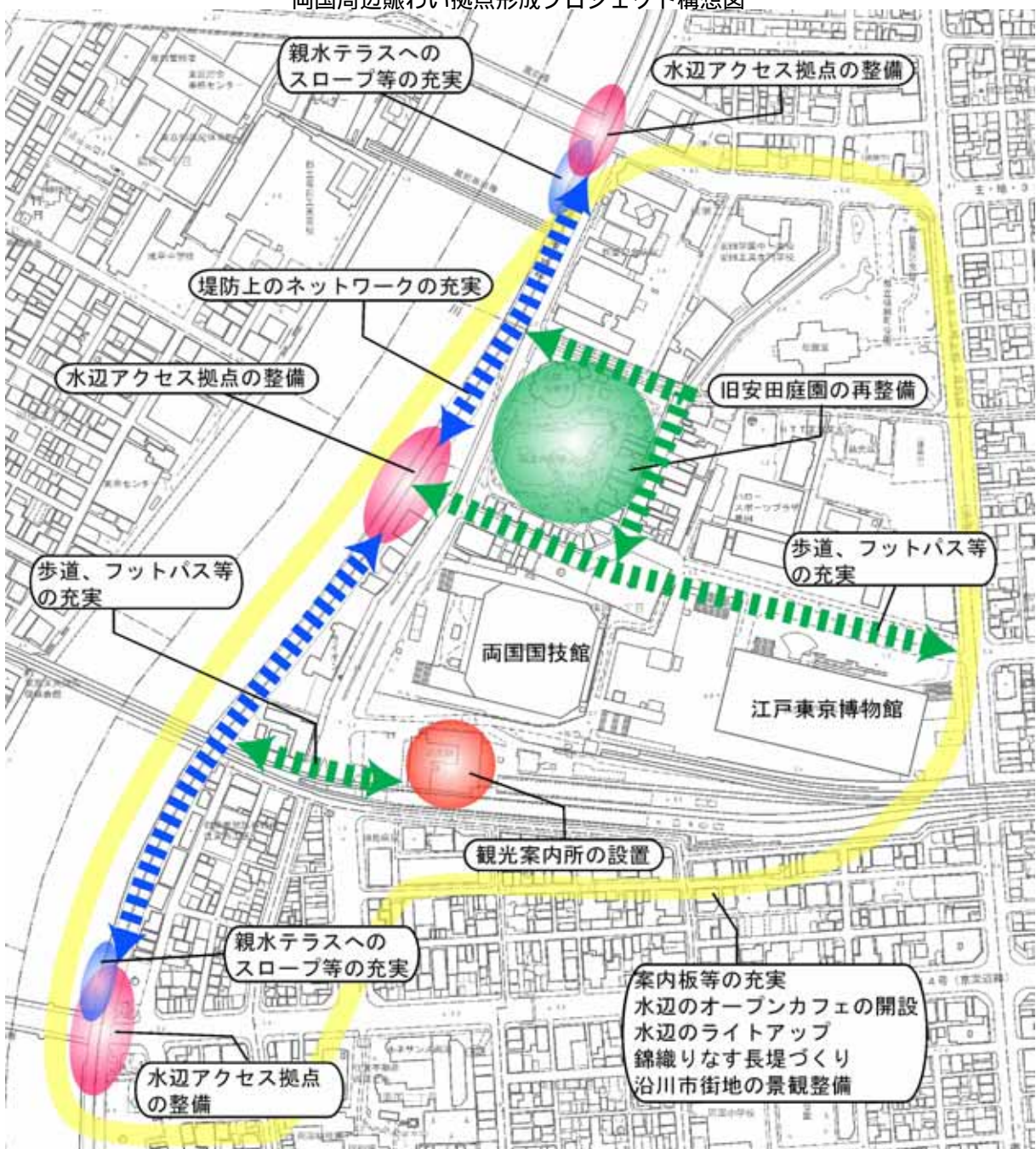
水辺では、両国橋周辺での橋詰広場の整備、親水テラスへのスロープの設置などを行うとともに、これらの空間を活用してオープンカフェやイベントを実施します。

項目	内容	時期
旧安田庭園の再整備	旧安田庭園の潮入の再生を含めた、再整備を行います。 再整備にあたっては、隅田川側との一体的な空間形成や歩行者ネットワークの強化にも配慮します。	短期
観光案内所の設置	両国駅周辺の各種観光資源と隅田川に、より多くの人を誘導するため、両国駅周辺に観光案内所を設置します。	短期
案内板等の充実	両国駅周辺を中心に、水上バス発着所、隅田川の存在をアピールする案内板等を充実します。	短期
水辺のオープンカフェの開設	両国駅から旧安田庭園に至る道路上のオープンスペースや水上バス発着所周辺の親水テラスなどを活用して、オープンカフェを開設します。中期的には両国橋の橋詰広場などでのオープンカフェの開設も視野に入れます。 オープンカフェでは、飲食業者と連携して、ちゃんこ料理などを提供することも考えられます。	短期
水辺のライトアップ	旧安田庭園、両国国技館などとも連携を図りながら、両国橋周辺の親水テラスなどでライトアップを行います。	短期
錦織りなす長堤づくり	地域住民等と協力して、堤防の斜面地などで季節を彩る草木を育てます。	短期
親水テラスへのスロープ等の充実	誰もが気軽に親水テラスへ降りることができるようスロープ等の整備を進めます。	短期
水辺アクセス拠点の整備	両国橋において、隅田川のアクセス拠点、アピール拠点となる橋詰広場の整備を推進します。また、親水テラスや堤防上の通路につながるスロープ等の設置を関係機関に呼びかけます。 蔵前橋においても、橋詰広場の整備を検討するとともに、広場、親水テラス、堤防沿いの通路、相互の連絡性を向上する方策（スロープ設置等）について関係機関と協議を進めます。 旧安田庭園前の交差点周辺では、水辺アクセス拠点として、公園等の整備を進めます。	中期
堤防上のネットワークの充実	隣接する建物敷地等との関係に配慮しながら、隅田川の視認性を向上するため、堤防上の通路の嵩上げを推進します。 また、幅員が極端に狭くなっている蔵前橋下の通路の改善を関係機関に呼びかけます。	中期



<p>歩道、フットパス等の充実</p>	<p>両国駅から線路沿いの道路に歩道の設置を検討します。 また、ビルとビル間の路地（余地）を活用して、隅田川に至る歩道(フットパス)の整備を推進します。 旧安田庭園と両国国技館の間の道路は、隅田川と北斎通りを結ぶ軸として、電線類の地中化等も行いながら歩行者及び公共交通優先の道づくり（コミュニティ道路化、トランジットモール化等）を進めます。その他の周辺道路についても歩行空間の充実を図ります。</p>	<p>中期</p>
<p>沿川市街地の景観整備</p>	<p>両国周辺の市街地では、景観地区の指定などを行い、観光資源等との調和に配慮した良好な街並み形成を誘導するとともに、電線類の地中化を進めていきます。</p>	<p>中期</p>

両国周辺賑わい拠点形成プロジェクト構想図



## 吾妻橋周辺賑わい拠点形成プロジェクト

両国、浅草、新タワーなどからの賑わいを適切に受け止め、隅田川に賑わいを呼び込むため、吾妻橋から隅田公園までの範囲で様々な施策を総合的に実施します。

台東区とも連携を図りながら、新たな船着場の整備、オープンカフェの開設、水上ステージの設置、水辺のライトアップ、観光案内所の設置などを行います。

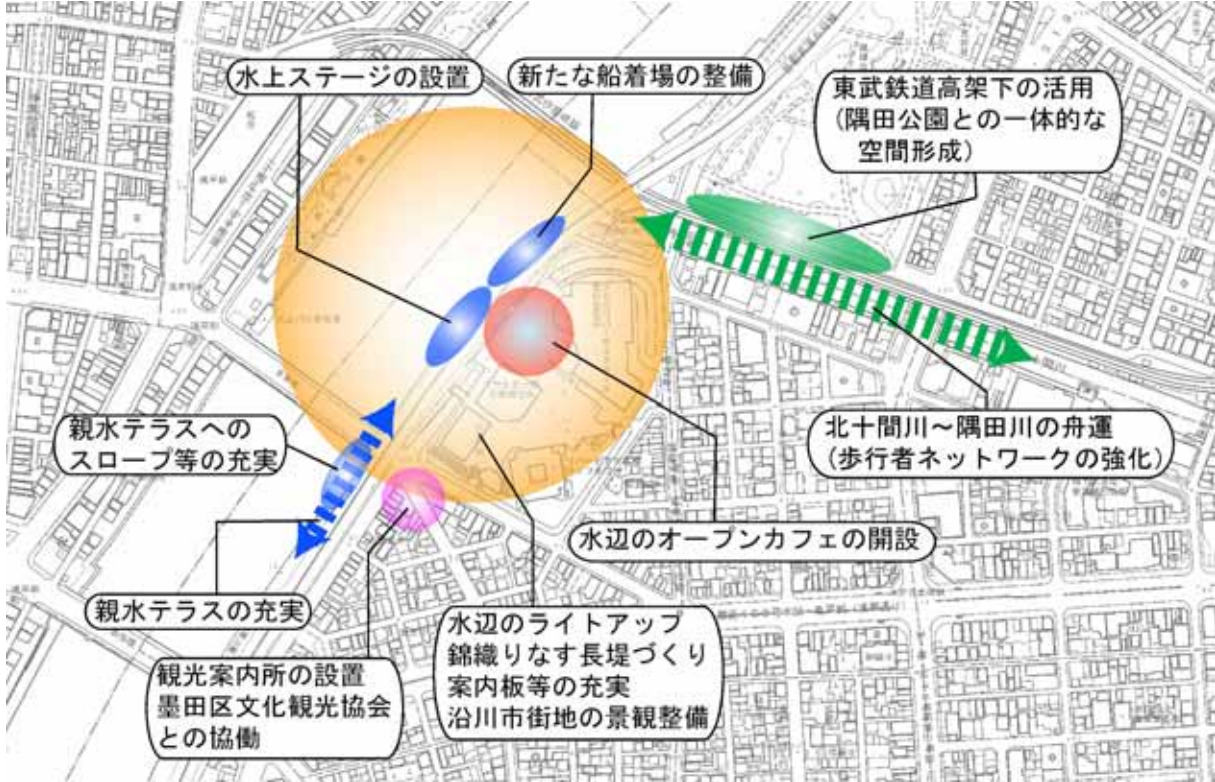
また、新タワー周辺との連携を強化するため、北十間川沿いのネットワークの強化や隅田公園と北十間川との一体的な空間形成を進めます。

項 目	内 容	時 期
新たな船着場の整備	現在の防災船着場を活用して、水上バスも着岸できる船着場を整備し、両国～吾妻橋を結ぶ新たな水上バスの運行を行います。	短期
水辺のオープンカフェの開設	区役所前の広場及び親水テラス等を利用して、オープンカフェを開設します。 まずは、社会実験を行い、本格的、継続的な開設に向けて、運営システム等のあり方を考察します。 オープンカフェでは、飲食業者と連携して、もんじゃ、ちゃんこ料理などを提供することも考えられます。 水上バス利用者、オープンカフェ利用者などが気軽に使えるトイレや休憩施設を整備します。	短期
水上ステージの設置	各種イベント舞台として、親水テラス前に水上ステージを設置します。 台東区とも連携を図りながら、オープンカフェ、水上ステージを中心に、水上コンサート、水辺ライブ、フリーマーケットなど、様々なイベントを継続的に実施します。	短期
水辺のライトアップ	台東区や周辺施設とも連携を図り、親水テラスなどのライトアップやクリスマスイルミネーションを実施します。	短期
錦織りなす長堤づくり	地域住民等と協力して、堤防の斜面地などで季節を彩る草木を育てます。	短期
案内板等の充実	台東区とも連携を図りながら、周辺の観光資源や散策コースを紹介する分かりやすい広域観光案内板などの設置を進めます。	短期
観光案内所の設置	吾妻橋付近に、観光案内所を設置します。観光案内のほか、土産物販売、レンタサイクルの貸し出しなども視野に入れます。	短期
墨田区文化観光協会との協働	区との良きパートナーとして、隅田川や墨田区、さらには隣接の浅草に関連する文化・観光の振興に向け、積極的なタイアップを求めています。	短期
親水テラスへのスロープ等の充実	誰もが気軽に親水テラスへ降りることができるようにスロープ等の整備を進めます。	短期
親水テラスの充実	吾妻橋で途切れている親水テラスの下流側への延伸を検討します。また、上流（隅田公園）側への歩行者動線の連続性の確保については、北十間川等の整備と一体的に進めます。	中期
北十間川～隅田川の舟運、東武鉄道高架下の活用（歩行者ネットワークの強化、隅田公園との一体的な空間形成）	北十間川～隅田川を結ぶ新たな水上交通を検討します。 北十間川の護岸整備にあわせて、北十間川沿いの歩行者ネットワークの充実と隅田公園と北十間川との一体的な空間形成を関係機関と協働して進めています。	短期



沿川市街地の景観整備	吾妻橋周辺の市街地では、北十間川沿いも含めて、景観地区の指定などを行い、水辺に顔を向けた良好な街並み形成を誘導するとともに、電線類の地中化を進めていきます。	中期
------------	--	----

吾妻橋周辺賑わい拠点形成プロジェクト構想図



隅田公園と北十間川の一体的な空間形成のイメージ



## 向島周辺水辺とまちの融合プロジェクト

点在する歴史・文化資源を保全・活用しながら、まちと水辺が融合した歩いて楽しい空間づくりを進めていきます。

桜橋周辺において、観光案内所の設置、オープンカフェの開設、水辺のライトアップ、艇庫の建設などを推進し、多くの人が集まる賑わいのある空間づくりを行います。

向島周辺においては、案内板等の充実を図るとともに、歴史・文化資源の保全・活用と良好な街並みづくりを行います。

隅田公園周辺では、水辺とまちの融合をめざし、墨堤通りの地下化を関係機関と検討します。

項目	内容	時期
観光案内所の設置	向島周辺や隅田川に、より多くの人を誘導するため、桜橋周辺に観光案内所を設置します。	短期
水辺のオープンカフェの開設	桜橋周辺に、言問団子等も販売する茶屋風のオープンカフェを開設します。	短期
案内板等の充実	向島周辺に、隅田川の存在をアピールする案内板等を充実します。	短期
水辺のライトアップ	桜橋周辺の親水テラスなどでライトアップを行います。	短期
錦織りなす長堤づくり	地域住民等と協力して、親水テラスなどに、季節を彩る花木による立体花壇等を設置するとともに、墨堤の桜の保全・創出を進め、長い期間桜を楽しめる空間づくりを行います。	短期
艇庫の建設	隅田川をボート競技のメッカとして復活させるため、桜橋周辺において艇庫の建設を促進します。	中期
堤防上のネットワークの充実	隣接する建物敷地等との関係に配慮しながら、隅田川の視認性を向上するため、堤防上の通路の嵩上げを推進します。	中期
親水テラスへのスロープ等の充実	誰もが気軽に親水テラスへ降りることができるようにスロープ等の整備を進めます。	短期
親水テラスの充実	銅像堀公園から白鬚橋にかけて親水テラスの整備やスロープの設置を関係機関に提案します。	中期
新たな観光資源の掘り起こし	点在する各種資源を上手く組み合わせたり、向島ゆかりの著名人などの要素も加えたりしながら、観光資源の掘り起こしを行います。	中期
沿川市街地の景観整備	向島周辺では、景観地区の指定等を行い、点在する歴史・文化資源と調和した良好な街並み形成を誘導するとともに、電線類の地中化を進めていきます。	中期
沿川道路の地下化	隅田公園と隅田川との一体的な空間形成を目指して、堤防沿いの墨堤通りの地下化（高規格堤防化）を関係機関と検討します。	中期



向島周辺水辺とまちの融合プロジェクト構想図

